

# 大洲



新春を祝う伝統の泳ぎ  
～大洲市寒中水泳大会～

# がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

大洲北中学校 3 年（現：大洲高等学校 1 年）

脇 坂 はづき さん



私が昨年の 4 月に大洲高等学校に入学してから、もうすぐ 1 年が経ちます。学校には中庭があり、私の班が毎日掃除をしています。また、クラスメイトと花の植え替えをした場所なので、中庭には愛着がありとても癒やされる場所です。私は絵を描くことが好きなので、美術部に所属しています。絵画の作品集を見たり、休みの日には美術館に絵を観に行くなどして、日ごろから絵に親しんでいます。私が尊敬するアーティストの「芸術に区別はない」という言葉に刺激を受けたので、これからも豊かな感性でいろいろな絵を描きたいと思います。

昔から心理テストに興味があり、卒業後は心理学を学べる大学への進学を希望しています。そして将来は、それを生かしたカウンセラーなどの職業に就きたいと思っています。

## 2 月の納税など

納期限は 2 月 28 日(火)です。

| 税 別           | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 |
|---------------|-----|-----|-----|-----|
| 市 県 民 税       | 5 期 |     |     |     |
| 固 定 資 産 税     |     |     | 1 期 |     |
| 軽 自 動 車 税     |     |     |     | 全期  |
| 国 民 健 康 保 険 税 | 8 期 | 9 期 |     |     |

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

## 現在の大洲

|     | 人の動き(先月比)          | 交通事故(去年同期)          |
|-----|--------------------|---------------------|
| 人口  | 44,872 人 ( - 43 )  | 件数 145 件 ( 171 件 )  |
| 男   | 21,449 人 ( - 13 )  | 死者 2 人 ( 2 人 )      |
| 女   | 23,423 人 ( - 30 )  | 負傷者 184 人 ( 223 人 ) |
| 世帯数 | 20,156 世帯 ( - 12 ) |                     |

(2016 年 12 月末現在)

## CONTENTS 目次

|         |                           |
|---------|---------------------------|
| 2 ページ   | がんばる大洲っ子・今月の表紙            |
| 3 ページ～  | (特集)他人ごとから自分ごとへ           |
| 10 ページ～ | シリーズ                      |
| 12 ページ～ | おおずニュース                   |
| 15 ページ～ | おしらせ                      |
| 25 ページ～ | 図書館・保健センター・<br>心と体の健康ガイド  |
| 28 ページ  | がんばるひと<br>(ちびっこ和太鼓サークル和奏) |

## 今月の表紙



真冬の空の下、新春恒例の「第 63 回大洲市寒中水泳大会」が、1 月 9 日(月)の成人の日に開催されました。

朝から降っていた雨は上がり、4 歳から 76 歳までの参加者 86 人が、水温 8 度の肱川で初泳ぎをしました。また、主馬神伝流の古式泳法のほか、松山大学と愛媛大学の水泳部による水書や日傘の演武が披露されました。

(特集)

# 他人ごとから自分ごとへ

—高齢者の自動車運転と支えあう地域の取り組み—



大洲警察署管内（大洲市・内子町）では、平成28年中に発生した交通事故のうち、65歳以上が関与するものが約55%を占め、愛媛県内平均の約41%と比べ、高くなっています。

市町村合併で新市が誕生した平成17年には、高齢化率はすでに28%を超え、平成28年12月末現在で33.7%となっている大洲市は、超高齢社会※に突入して久しくなります。平均寿命が伸び、健康な65歳以上の人も当然多くなっていますが、今後さらなる高齢化社会を迎えるにあたり、高齢者ドライバーの問題は避けて通れないものとなることが予想されます。

今月号では、高齢者が関与した交通事故の現状のほか、車を運転することが困難な地域住民を支える自治会の取り組みについて紹介します。

※超高齢社会：一般的には、高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）が21%を越えた状態を指す。

# 大洲警察署管内における高齢者事故の特徴

高齢化などの影響により、65歳以上の運転免許保有者が増え続けるなか、近年、全国的に高齢者による交通事故が大きく報道され、高齢者ドライバー問題への関心が高まっています。

大洲警察署管内（大洲市・内子町）の交通事故の発生件数は、全国的な傾向と同じで、死傷者数とともに減少傾向にあります。しかし、全体に占める高齢者の事故割合は年を追うごとに上昇し、高齢者の人身事故割合は平成28年中、愛媛県の平均を大きく上回る54.7%（表1）となっています。

大洲警察署交通課によると、高齢者事故の発生時間帯は、昼間が全体の約9割を占め、特に午前10時から正午の間に多発しているとのこと。また、交差点および交差点付近で全体の約半数の事故が発生し、事故の原因は安全確認不十分によるものが多いことが特徴となっています。

歩行者・自転車事故を含む人身事故形態では、出合頭、追突、後

退時などの順に多く（表2）、ガードレールの無い道での転落や歩道乗り上げなどの単独事故、信号

の無い直線道路での正面衝突が多いことが挙げられます。また、高齢者が関与する交通事故のうち、

第一当事者（おおむね責任が大きいもの）が高齢者である割合は約8割と、非常に高くなっています。

面積の7割を森林が占め、山間部が多い大洲市での日常生活においては、車が欠かせない移動手段となっています。高齢者が関係する事故を防止するために、必要な方策を幅広く検討していくことや、公共交通サービスの確保などの対策が急がれます。

表1 交通事故概況（平成28年中）

|       | 件数    |      | 死者数   |     | 傷者数   |      |
|-------|-------|------|-------|-----|-------|------|
|       |       | 前年比  |       | 前年比 |       | 前年比  |
| 県内    | 4,497 | -589 | 77    | -1  | 5,316 | -646 |
| うち高齢者 | 1,849 | -255 | 54    | -1  | 2,092 | -306 |
| 高齢者比率 | 41.1% |      | 70.1% |     | 39.4% |      |
| 大洲警察署 | 192   | -49  | 3     | -2  | 244   | -64  |
| うち高齢者 | 105   | -7   | 2     | -3  | 124   | -24  |
| 高齢者比率 | 54.7% |      | 66.7% |     | 50.8% |      |

表2 高齢者事故の主な形態（平成28年中・大洲署管内主要5項目）

|       |    | 出合頭   | 追 突   | 後 退<br>接触など | 単 独   | 正面衝突 |
|-------|----|-------|-------|-------------|-------|------|
| 県内    | 件数 | 396   | 355   | 146         | 71    | 60   |
|       | 割合 | 21.4% | 19.2% | 7.9%        | 3.8%  | 3.2% |
| 大洲警察署 | 件数 | 19    | 18    | 18          | 12    | 8    |
|       | 割合 | 18.1% | 17.1% | 17.1%       | 11.4% | 7.6% |

※表1・2ともに歩行中の事故・自転車事故を含む人身事故数

※高齢者は65歳以上を計上



高齢者による交通事故（歩道乗り上げ）



大洲警察署 交通課  
としき  
前田 俊樹 課長

## 「免許返納は一つの選択肢」

大洲警察署管内における高齢者事故の特徴としては、被害者よりも、加害者になってしまうケースが圧倒的に多いということです。加齢による身体能力の衰えは、「危ない」と思ってからの反応速度の遅れや、顔を動かさない目線だけの安全確認などに表れてしまいます。

運転免許の自主返納制度は以前からありましたが、ここ最近の高齢者事故報道などにより、本人とご家族からの相談が増えてきています。免許返納は高齢者事故を防ぐ手段の一つではありますが、車での移動が極めて多い状況にある大洲市では、地理的な要因をはじめ、さまざまな問題が背景にあり、公共交通の整備や家族の十分なサポートがなければ「今すぐ免許返納」ということにはならないと思います。

警察としても、取り締まり、広報活動、交通安全教育などを長年続けてきましたが、高齢者が関わる事故が一気に減るような特効薬はないと感じています。今後も全体に占める高齢者の事故割合が高い傾向は続くと思われますので、長いスパンで見ながら、自主返納制度に対する支援を広げていくと同時に、地域に積極的に出向いて講習を行うなど、交通安全教育の裾野を広げていきたいです。

### 運転免許自主返納支援制度

市内では、自主返納支援事業所において、免許自主返納者に対するさまざまな特典（預金利息割り増し、商品購入割引、サービスポイント優遇など）による支援を実施しています。

また、1月からは大洲交通安全協会会員を対象に、運転経歴証明書の発行手数料を半額補助する制度が始まっています。



特典を受けるために必要なものは、事業所により異なる

### 運転経歴証明書

「免許を返納してしまうと、免許証に代わる証明書がなくなる」という人のために、公的機関などで生涯使うことができる写真付き身分証明書が運転経歴証明書です。

自主返納と同時に申請ができるほか、自主返納後も5年以内であれば、申請することができます（申請には手数料が必要）。



運転免許証と同じ大きさのカード

# 「運転技術の衰えを 自覚すること」

河野 <sup>よしはる</sup> 美治 さん（肱川町山鳥坂）

## 車の運転は、ほぼ毎日

老人クラブや文化協会、自治会での活動など、毎日精力的に動いている美治さん。日々の生活に車は欠かせません。

「クラブ活動で書道や吟詠の指導をする時は、夜間に河辺町まで行く。妻は運転免許を持っていないので、松山市の病院まで連れて行くこともある。車がないと成り立たない」と話す美治さんは、85歳を迎え、免許更新時の講習で教官に指導されたことを、忠実に守っているそうです。「両側を見る力が落ちる。左右確認は特に念入りにしている」と、普段から運転



「今の生活に車は欠かせない」と美治さん

に細心の注意を払っています。長年、助手席で美治さんの運転を見てきた妻の幸子さんは「今のところ運転に不安はないが、将来免許を返すことになれば、生活するうえで困ることが多くなる」と話しました。

病気やけがをすると車の運転が難しくなってしまう、どうしても家から出る機会が減ってしまいます。美治さんは常に自分も健康に気を付け、「ゲートボールなどで声を掛け合っていると、普段と違う様子はすぐ分かる。病気や認知症が疑われる知人には、運転に気をつけるように助言している」と、周りにも積極的に声をかけているそうです。

## 健康であり続けたい

最近、周りの友人たちのなかに「免許返納を考えている」という人が増えてきたといいます。

「少し無茶な話かもしれないが、市の中心部や幹線道路での運転が難しくなった人でも、『この範囲内なら運転してよい』というエリアが一部でも設定されたら、と思うことがある」「夫は若い人にはまだまだ負けないと思っているかも。先日、東京までなら運転できると笑って話したところ」と、二人は笑顔で話していました。



特にこの10年は運転に注意しているという

## 運転をやめるという決断ー

# 「夫のサポートが あればこそ」

濱田<sup>えりこ</sup>恵利子 さん（大洲）



### 思い切って返納

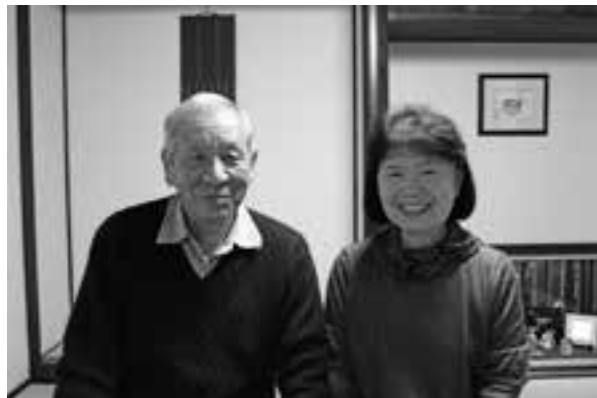
「自損事故ならまだしも、他人に迷惑をかけることがあってはいけないと思った」と話す恵利子さんは、後期高齢者となる75歳を迎えることをきっかけに、昨年運転免許を返納しました。

「同世代の知り合いのなかでは、免許返納をしたというのは聞いたことが無い。私自身、これまでに事故を起こしたことはなく、今でも運転しようとすればできると思うが、2台あった車も1台で済むし、夫の運転があれば事足りると思った」と恵利子さん。返納後の身分証明書として、運転経歴証明

書も申請したそうです。

73歳の夫・稔<sup>みのる</sup>さんは「今のところは自分が運転することに不安はなく、妻の免許返納は特に反対ではなかった。ただ、80歳を過ぎれば、その時の健康状態にもよるが、私の運転も考えなければ」と話しました。

よく車で旅行に出掛けるという濱田さん夫妻は、スピードを控え1時間おきに必ず休憩して、ドライブを楽しんでいるそうです。稔さんは「運転歴は50年になり、高齢者教習では特に指導はなかったが、運転に注意しすぎることはない。決して無理はしないこと」と話しました。



「夫の運転に任せています」と恵利子さん



自分のペースで運転するという稔さん

### 夫婦で支えあいながら

料理店を営む濱田さんは、お客さんの年齢が比較的高いことから、車で来る高齢者に不安を感じることが多いといいます。

「お帰りの際は、いつも見送りをしている。余計なお世話かもしれないが、なかには運転が心配な人もいて、帰宅したら必ず電話をくださいと、声を掛けることもある。幸い、私は夫に買い物も任せることができるので、今のタイミングで免許返納してよかったと思う」と、恵利子さんは夫のサポートに感謝していました。

# 地域で支え、足となる

## ―豊茂自治会の取り組み―

約200世帯、人口400人あ  
まりの豊茂地区。個人経営の食料  
品店が撤退した平成23年、自治会  
が運営する「ミニスーパー豊茂」  
が誕生しました。地元住民による  
店舗運営に加えて、自治会が力を  
入れているのが「移動販売」です。

週に2回、午前と午後に分けて  
合計約60軒を回る移動販売は、買  
い物が困難な高齢者にとって、生  
活を守る重要なものとなっていま  
す。また、買い物の支援だけにな  
く、高齢者に積極的に関わること  
で、見回り機能も果たしています。



### 「ええこと、本当に助かる」

豊茂地区を通る県道から山道に入り、15分ほど進むと、谷を望む山の中腹に山本さんのお宅が見えます。車のスピーカーから音楽が聞こえたら、移動販売の合図です。ドライバーが玄関先から声を掛け、在宅かどうかを確認します。

一昨年まで車の運転をしていたという88歳の忠久さん。息子さんたちの勧めもあり、免許を返納しました。「年齢もあり、危ないと思った」と話す忠久さんは、「今は運転してもらって外出するのも通院のときぐらい。移動販売が来るたびに利用している。本当にありがたいこと」と笑顔で話していました。

八重子さんは「娘たちが食事などを持ってきてくれるので助かっている。移動販売では食料品を買うことが多いが、日用品もそろっているし、今後もしばらく続けてほしい」と周囲の支えに感謝していました。



ただひさ 山本 忠久さん・やえこ 八重子さん



豊茂自治会 会長  
藤淵 良子 さん



課題を話し合うスタッフ

て取り組んでいます。支える側の私たちも高齢となり、「夜間の運転が怖くなってきた」と話すスタッフもいます。「将来は自分たちが支えられる番になる」とよく話していますが、次世代の育成にも力を入れながら、無理のない範囲でこのサービスを続けていければと思います。

## 「自分のこととして」

平成25年7月から移動販売をスタートさせ、有志の地域住民がスタッフとなっています。課題や問題はさまざまですが、地域のみなさんの理解と協力をいただきながら運営しています。

豊茂地区の独居高齢者の多くは女性です。もともと運転免許を持っていない人も多く、移動販売は大変喜ばれます。「よく来てくれた」「音楽が聞こえるのが楽しみ」との声があり、いつもの時間になると、外に出て待っていただいていることもあります。また、販売だけでなく、高齢者の安否確認や、手を握って会話をするなどのコミュニケーションも兼ねています。

免許を持っていない、または返納した人にとって、周囲のサポートが不可欠だと思いますが、私たちも「他人ごとでない」という危機感を持って



食料品や日用品、総菜などがそろう

## 周りの支えと当事者意識

今後高齢化が進むなかで、やむを得ず車を運転する高齢者がますます増加することが懸念され、高齢者が関わる交通事故が大幅に減ることは難しい状況が続くと思われる。また、免許返納などにより車を運転できなくなった高齢者が、外出する機会がなくなり、日常生活に支障をきたすという問題もあります。

市では、公共交通対策を主要課題の一つとして位置づけ、平成29年度に策定を予定している「地域公共交通網形成計画」において、高齢化対策についても検討することとしています。しかし、家用車に依存した生活スタイルからすぐに転換するのは容易ではありません。

今回お話を伺ったみなさんのように、それぞれ健康状態や家庭の事情が異なるため、一律の解決策は見出しにくいのが現状です。公共交通の整備はもちろん、家族をはじめとした周囲のサポートの充実など、安心して車を手放せるような環境整備と、高齢者ドライバーの問題をいかに「自分のこと」として捉えられるかが重要だといえます。